

当面の技術対策（農産編）

平成23年7月1日

発行：ゆとりみらい21推進協議会 指導部会 幕別町忠類地区

ほ場観察をよく行い、病虫害の被害を最小限にとどめるように努めましょう。また、薬害防止のために日中高温時(25℃以上)の薬剤散布は避け、夕方の涼しい時間帯に防除作業を実施してください。(なお、使用薬剤については各地域の農薬使用基準等を参考にして下さい。)

1 秋まき小麦

(1) 病虫害防除

赤かび病防除

気象条件を考慮し、曇天降雨が続く場合には追加防除を行います。追加防除を行う場合には、農薬の使用時期と使用回数、同じ系統薬剤は連用しないよう注意してください。

アブラムシ類防除

出穂期以降、1穂当たり7～11頭程度寄生するとともに寄生穂率45%以上になると、吸汁害により細麦化し減収しますので、ほ場観察のうえ防除を実施してください。

2 てんさい

(1) 病虫害防除

ヨトウガ

発生状況を確認し、被害が見られたら防除を実施します。老齢幼虫に対しては薬剤の効果が著しく低下するので、若齢幼虫(体長が5mm程度)のうちに防除を行ってください。

根腐病

連作や短期輪作ほ場などは予防防除に努めてください。防除は株元まで薬液が付着するように根際散布か、水量を多く(200L/10a)して散布してください。

褐斑病

連作ほ場、短期輪作、過去に被害茎葉をすき込んだほ場では早発し発生量も多くなります。褐斑病は高温多湿(気温25℃程度、湿度85%)で多発するため、ほ場観察と天候に注意し、発生初期のうちに防除を行ってください。

3 馬鈴しょ

(1) 病害防除

疫病

疫病は発生前の予防散布を基本とし、遅れないように防除を行ってください。

軟腐病

軟腐病は高温多湿や窒素肥料の多肥、倒伏の発生等で発病しやすくなります。主に下葉の接地部から発病し始めますので、ほ場を観察し発病初期に防除を実施してください。

4 豆類

(1) 中耕

生育促進のため、中耕を実施しますが、株元までの中耕は断根による生育障害を招くので、注意してください。

(2) マメアブラムシ(小豆)防除

乾燥した天候時に多発する傾向があり、発生すると集団で寄生するため、吸汁害が激しくなります。ほ場観察を十分行い初期防除に努めましょう。

収穫時期が近づいている作物については、農薬の使用時期に注意！
防除回数が増加する時期なので、生産履歴の記入は忘れずに！